Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト報告書

学校番号	30	学校名	巨摩高校		
全・定・通	定	学年	1	在籍生徒数	3名
教育目標 (学力に関するもの)	わかる授業を実践し、基礎学力を身につけさせる。				
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	健康で、明るく、思いやりのある心の温かい生徒を育成する。				

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	4.7	4.7	漠然と覚えるのではなく、意味や裏付けをもって覚えるように、基礎的な知識・技能こそ裏付けをもって指導することを継続していきたい。
	自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	4.7	4.7	書き方の指導と書く内容の指導は別であることを生徒にも意識させることで、委縮することなく表現ができるようになったため、引き続き表現方法と内容の指導の区別を意識していきたい。
	言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	4.7	4.7	自分の考えを表現することで他者と比較することができ、その際に優劣をつけるのではなく考えの違いを楽しむことで、他者と関わろうとする態度を養っていきたい。
地公	社会参画をする際に選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を探究するために必要な知識や技能を身に付けることができる。	3.8	3.3	不十分な点は、反復学習を行い、さらなる定着を図りたい。また、生徒が理解しやすいように、教材づくりを工夫していきたい。
	公共の諸課題を発見したうえで、その課題の解決に向け考察し、表現することができる。	4.0	4.0	新聞記事に興味を持たせるため、BYODを活用し、インターネットニュースに触れる機会を増やしていきたい。
	公共の主題の研究に主体的に関わり、探究することができる。	4.0	4.0	探究する時間を十分にとることができなかったため、授業の進め方を工夫し、探究する時間を捻出できるように心がけたい。
数学	数学的なものの見方・考え方を働かせ、積極的に活用しようとする態度を養う。	4.0	4.0	基礎・基本を確実に身に付け、その知識や考え方を次にどのように活用するかを主体的に考え、取り組む態度を育成していく。
	数学の良さを認識し、生活のさまざまな場面で生かすことができる。	4.0	4.4	数学で学んだ知識が実生活でどのように活用されているかを具体的な事象を通じて示し、興味や関心を引き出し、数学の良さに気付かせる。
	物事を筋道立てて、論理的に考察・判断することができる。	4.0	3.7	解答を導き出す過程を丁寧に組み立てることで、「なぜそうなるのか」の理解を深めていけるよう指導する。
理科	自然科学における諸現象に興味を持ち、その仕組みを探究しようとする態度を身に付ける。	4.7	4.4	ただ、教科書の説明をするのではなく、身近な『なぜ』から導入することが大切。身近な事象に科学の興味あふれる原理が隠れていることを、より伝えていきたい。
	観察や実験を通して、その背景にある法則を推測し、仮説を作り、表現することができる。	4.7	4.0	実験を行うことは、理解を深めるために必要なことである。年間6回の実験を行ったが、更に回数を増やし、自然科学への理解が深まるような授業づくりを行ってきたい。
	自然科学を学ぶ際に必要となる知識や技能を確実に身に付ける。	4.7	4.0	計算能力に難があるので、基本に立ち返り、丁寧に指導していきたい。また、BYODを使い、調べ学習も効果的にしていきたい。
英語	英語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深める。	4.7	4.7	既習の語彙、表現、文法項目などであっても、繰り返し扱い、記憶の定着につながるような発問をする。
	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。	4.7	4.4	教科書で扱う英文を逐語訳するのではなく、概要を捉えられているかを確認する。また、簡単な質問は英語で行うことで、英語によるコミュニケーションの機会を設ける。
	英語の背景にある文化に対する理解を深める。	4.4	4.4	英語特有の表現方法や英語表現の背景にある文化に気付くよう、日本語表現やその文化との違いについても知る機会を設ける。
芸術	作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表現している。	4.0	3.7	席書き大会に積極的に参加させ、書の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組ませたい。
	書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえている。	4.0	3.4	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組ませ、書の伝統と文化に関心を持たせたい。
	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	4.0	3.0	書の伝統と文化について幅広く理解させ、日常生活の中で書の効用を理解させたい。
家庭	生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	4.0	3.7	食生活の現状や課題について考えさせ、日常の食生活の問題点について考える機会を作りたい。
	生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	4.7	4.4	基礎的な調理技術を身につけ、生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるように、日常食を作れるようにさせたい。
	自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。	4.0	4.0	環境を考えたエコクッキングや食料自給率の問題について考える機会を作り、食生活の変化や問題点を知らせたい。
保健	運動に関する理論について理解し、目的に応じた技能を身につけようとする工夫している。	4.7	4.0	身につけようとする姿勢に個人差はある。運動が好きな状態を保ちつつ、少しずつ技能向上に努めるようにしたい。
	自己の健康について興味・関心を持ち、健康の保持増進に向けて生活習慣の改善に取り組んでいる。	4.7	4.0	自己の生活習慣を振り返り、改善する姿勢も見せた。一時的な改善ではなく、習慣的に運動や健康的な生活に励むことができるように、運動の楽しさや調のとれた生活の気持ちよさを味合わせたい。
	運動の目的を理解し、楽しく協力しながら運動を実践している。	4.7	4.0	運動のルールを理解し、仲間と楽しく運動に取り組んでいた。色々なスポーツに触れ、運動の楽しさを味わえるよう指導したい。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
(情報)				
総探	探究の過程における課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付けることができる。	—	4.4	地域の伝統文化に関わる人々の想いを探究することができたので、次年度はその深化を図りたい。
	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出すことができる。	—	4.4	地域の伝統文化を学ぶだけでなく、伝統文化を継承する行事に参加し、他者の作品にも触れることができたので、次年度はさらに作品の完成度を高めたい。
	探究に主体的・協働的に取り組むことができる。	—	4.4	生徒が行う探究が社会とどのようにつながるか、教員に教わるのではなく気づけるような声掛けを心がけたい。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う	96.5%	64.3%
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う	96.5%	92.9%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う	100.0%	100.0%
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	92.9%	100.0%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	53.6%	64.3%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う	60.8%	96.5%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた ①強くそう思う, ②そう思う	89.3%	64.3%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う	96.5%	100.0%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
学校がパソコンや視聴覚教材、プリントの活用など工夫をした授業実践に努めており、生徒が学習に取り組む環境が整えられていると考える肯定的な保護者が100%に達している。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
アンケート項目のうち、①「話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた」、②「他の人の話や発表に耳を傾けることができた」、③「ノート等で授業の記録をすることができた」に対して、通年で高い結果となった。その中でも①と②に関しては、令和5年度ではそれぞれ50%及び70%の結果と比較して、大きく改善された。また、「授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた」については、昨年度60%の結果で課題であったが、本年度は個々の教員の取り組みにより成果へつながったと言える。一方、学んだことを別の場面で使うようにできるよう、知識・技能の習得に終わらない指導方法の改善が課題と言える。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト報告書

学校番号	30	学校名	巨摩高校		
全・定・通	定	学年	2	在籍生徒数	2名
教育目標 (学力に関するもの)	わかる授業を実践し、基礎学力を身につけさせる。				
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	健康で、明るく、思いやりのある心の温かい生徒を育成する。				

各教科の取組					
教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題	
国語	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	※個人が特定される可能性があるので非公開とします。	基礎的な知識・技能を身近な状況で例えることで、理解度が深まり、定着が図られた。生徒自ら身近な例を思い浮かべられるように指導していきたい。		
	自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		筆者の考えと生徒の考えを比較することで、様々な発想を表現するようになった。より複雑な内容の教材でも、豊かな発想ができるような余地を残した授業を心がけたい。		
	言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		言葉の裏には様々な価値観があり、様々な環境があるということに思いを馳せるようになった。異なる価値観に触れることで、世界の見え方が広がるような授業を心がけたい。		
地公	政治学・経済学的な見方・考え方をするための手掛かりとなる概念や理論を探究するために必要な知識や技能を身に付けることができる。		基礎知識の定着をおおむね達成することができたが、まだ不十分な点もあるので、反復学習を行い、さらなる定着を図りたい。		
	政治・経済の諸課題を発見したうえで、その課題の解決に向け考察し、表現することができる。		ニュースに興味を持たせるため、BYODを活用し、インターネットニュースに触れる機会を増やしていきたい。		
	政治・経済の主題の研究に主体的に関わり、探究することができる。		授業の進め方を工夫し、探究する時間や調べ学習の時間を捻出できるように心がけたい。		
数学	数学的なものの見方・考え方を働かせ、積極的に活用しようとする態度を養う。		身に付けた知識がどのように、どこで活用されるのかを理解し、自ら積極的に問題解決に取り組んでいけるように指導していく。		
	数学の良さを認識し、生活のさまざまな場面で生かすことができる。		日常生活における具体例を取り上げ、物事を数学的に処理することの良さを実感させていく。		
	物事を筋道立てて、論理的に考察・判断することができる。		解答を導き出す手順を丁寧に指導する中で、主体的に筋道を立てて取り組み、論理的な思考・考察を確立できるようにしていく。		
理科	自然科学における諸現象に興味を持ち、その仕組みを探究しようとする態度を身に付ける。	ただ、教科書の説明をするのではなく、身近な『なぜ』から導入することが大切。身近な事象に科学の興味あふれる原理が隠れていることを、より伝えていきたい。			
	観察や実験を通して、その背景にある法則を推測し、仮説を作り、表現することができる。	実験を行うことは、理解を深めるために必要なことである。年間6回の実験を行ったが、更に回数を増やし、自然科学への理解が深まるような授業づくりを行ってきたい。			
	自然科学を学ぶ際に必要となる知識や技能を確実に身に付ける。	少人数なので、対話を重視し、知識・技能が備わっているかをチェックしながら授業を進めたい。また、BYODを使い、調べ学習も効果的にやりたい。			
英語	英語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深める。	既習の語彙、表現、文法項目などであっても、繰り返し扱い、記憶の定着につながるような発問をする。			
	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。	教科書で扱う英文を逐語訳するのではなく、概要を捉えられているかを確認する。また、簡単な質問は英語で行うことで、英語によるコミュニケーションの機会を設ける。			
	英語の背景にある文化に対する理解を深める。	英語特有の表現方法や英語表現の背景にある文化に気付くよう、日本語表現やその文化との違いについても知る機会を設ける。			
(芸術)					
家庭	生活を主体的に営むために必要な知識と、それらに係る技能を身につける。	日常の食生活の問題点について考え、食生活の現状や課題について考えさせたい。			
	生涯を見通して課題を解決する力を身につける。	生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるように、基礎的な調理技術を身につけ、日常食を作れるようにさせたい。			
	自分や家庭や地域の生活の充実に貢献しようとする実践的な態度を身につける。	食生活の変化や問題点を知り、環境を考えたエコクッキングや食料自給率の問題について考えさせたい。			
保体	運動に関する理論について理解し、目的に応じた技能を身につけようとする工夫している。	運動の理論を理解し、行動に移すことができていた。次年度も引き続き、生徒が自ら学びに向かえるようサポートしたい。			
	自己の健康について興味・関心を持ち、健康の保持増進に向けて生活習慣の改善に取り組んでいる。	運動することで心と体を整える、良質な睡眠、栄養バランスの良い食事を取るなど、身近な生活習慣を整えることで心と体の健康を保つ意識を持たせたい。			
	運動の目的を理解し、楽しく協力しながら運動を実践している。	楽しく運動をしている様子が見られる。他学年と合同で体育も実践した。よりよく運動を実践するためのコミュニケーションが図られるようにしたい。			

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
(情報)			※個人が特定される可能性があるので非公開とします。	
総探	探究の過程における課題に関わる概念を形成することができる。			地域の伝統文化の伝承と保存会の方と交流する大切さを理解することができた。引き続き交流を大切にしたい。
	自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析することができる。			今年度は、インターネットを使った調べ学習によって情報を集めたが、図書館の郷土資料も参照したい。
	互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造することができる。			地域の方の指導を受けることによって、地域活動を推進しようとする意欲が増した。次年度も地域の方の指導を仰ぎたい。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)		R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた	①強くそう思う, ②そう思う	※個人が特定されません。	るれ※ たる個 ため可 人非能 が性特 開が定 とあさ
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた	①強くそう思う, ②そう思う		
他の人の話や発表に耳を傾けることができた	①強くそう思う, ②そう思う		
ノート等で授業の記録をすることができた	①強くそう思う, ②そう思う		
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた	①強くそう思う, ②そう思う		
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた	①強くそう思う, ②そう思う		
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた	①強くそう思う, ②そう思う		
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた	①強くそう思う, ②そう思う		

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
学校がパソコンや視聴覚教材、プリントの活用など工夫をした授業実践に努めており、生徒が学習に取り組む環境が整えられていると考える肯定的な保護者が100%に達している。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
「授業アンケート」高評価数値の結果から、昨年度の結果と比較してほとんどの項目が改善されている。一方、「家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた」と「授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた」の項目では、本年度末評価が中間評価から大きく下がっており、また昨年度と比較しても評価が低いままであった。有職生徒がいるなか、授業を家庭学習に結びつける指導は容易ではないと思われるが、ICT機器の利活用も視野に入れ授業と家庭学習の有機的な結びつけの方法について検討していくことが課題と考えられる。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト報告書

学校番号	30	学校名	巨摩高校		
全・定・通	定	学年	3	在籍生徒数	5名
教育目標 (学力に関するもの)	わかる授業を実践し、基礎学力を身につけさせる。				
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	健康で、明るく、思いやりのある心の温かい生徒を育成する。				

各教科の取組					
教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題	
国語	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	4.2	4.2	それぞれの目標進路などを踏まえ、優先順位をつけながら着実に身につける姿勢が生まれた。知識が卒業後どこにつながるのかを意識させる授業を心掛けた。	
	創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	4.2	4.2	答えが人によって違う教材に触れ、自らの答えを考えることで、自らの傾向や得手不得手を発見していくことができた。答えのない問いを定期的に投げかけて、自らの発想の広がりにつなげていきたい。	
	言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	4.4	4.4	様々な分野に関する文章を扱うことで、未知の分野に触れる経験を積むことができた。文章を読むことで、世界が広がる経験が味わえる授業を心掛けた。	
地公	地理的な見方や考え方をするための手掛かりとなる概念や理論を探究するために必要な知識や技能を身に付けることができる。	3.8	3.8	基本的な事項の定着を図るため、教材づくりを工夫し、反復学習をすることで、さらなる知識や技能の向上につとめた。	
	地理の諸課題を発見したうえで、その課題の解決に向け考察し、表現することができる。	4.0	4.0	地理的な諸課題を探究し、文章で表現させることで、主体的に考える授業づくりを実践していきたい。	
	地理の主題の研究に主体的に関わり、探究することができる。	3.8	3.8	ニュースや動画教材を使い、生徒の興味関心を喚起したうえで、BYODパソコンを使った授業を増やしていきたい。	
数学	数学についての性質を理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。	4.8	4.8	公式を理解しその知識を使って問題解決するという流れはかみなりできたので、それをさらに発展させていきたい。	
	課題に関心をもち、これまでの知識等を基にして解決を図ることで、事象を数学的に考察する能力を養う。	4.3	4.3	一つ一つの公式を深く理解するということはできたので、それが二つ三つ組み合わせられた複雑な問題にも挑戦していく。	
	数学のよさを認識できるようになり、身近にある課題に対して、それらを活用することができる。	4.5	4.5	数学が「嫌い」という状態は脱出したと思うので、生活の中で使われている数学が目が向けられるよう指導を工夫していく。	
理科	生活の中に科学技術が生かされていることを理解し、その原理と仕組みを知ることで、より豊かな生活を送ることができる。	4.0	4.0	身近な『なぜ』から導入することが大切。身近な事象に科学の興味あふれる原理が隠れていることを、より伝えていきたい。	
	知識だけでなく観察や実験を通すことで、背景にある自然法則を理解し、深い理解を育むことで、自然現象の原理の推測と考察ができる。	4.4	4.4	実験を行うことは、理解を深めるために必要なことである。年間9回の実験を行ったが、更に回数を増やしていきたい。	
	自然科学における諸現象に興味を持ち、その仕組みを探究しようとする態度を身に付けると共に、必要となる知識や技能を習得する。	4.2	4.2	知識に個人差があるので、質問を重視し、個々の理解度をチェックしながら授業を進めたい。また、BYODも効果的に使いたい。	
英語	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に表現できる技術を身に付ける。	4.0	4.0	人前で英文を声に出して読むことができるようになってきており、また、既習の文法的な項目については少しの援助で気付くことができるようになってきているので、これらの技術や知識を表現活動につなげていく。	
	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、英語で情報や考えなどを活用して適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。	3.6	3.6	教科書で扱う英文を逐語訳するのではなく、詳細を捉えられているかを簡単な質問で英語で行うことで、生徒と教師間の英語によるコミュニケーションの機会を設ける。	
	英語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	4.0	4.0	英語特有の表現方法や英語表現の背景にある文化に気付くよう、日本語表現やその文化との違いについても知る機会を設けつつ、このことを意識して生徒自身が英語でコミュニケーションする活動につなげていく。	
(芸術)					
(家庭)					
保体	運動に関する理論について理解し、目的に応じた技能を身につけようとして工夫している。	4.0	4.0	身につけようとする姿勢に個人差はある。運動が好きな状態を保ちつつ、少しずつ技能向上に努めるようにしたい。	
	自己の健康について興味・関心を持ち、健康の保持増進に向けて生活習慣の改善に取り組んでいる。	4.0	4.0	運動を習慣的に行う姿勢を身につけるだけでなく、十分な睡眠・食事をしっかりと取る大切さを体育の時間に限らず、伝えたい。	
	運動の目的を理解し、楽しく協力しながら運動を実践している。	4.2	4.2	運動仲間と協力して楽しく取り組んでいる。次年度も少人数でも運動を楽しむことができる種目を考案していきたい。	

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得する。	4.0	4.0	PCでよく利用されるアプリケーションを限られた授業数でよく演習できた。色々な課題を用意し反復することで定着を図ってきたい。
	課題の発見・解決に向けて情報と情報技術を効果的に活用する。	3.8	3.8	日常生活の中で、ギャップを感じるにより、問題意識を持ち、課題の発見につながるので、ギャップについて話し合うことができるように工夫したい。また、情報収集や情報の分類・分析についても工夫したい。
	情報と情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的に加わる態度を養う。	4.0	4.0	スマホの利用などにより、日常的に情報技術に接しているが、それがどのような仕組みなのか、どのように活用されているかイメージできるように具体的な例などを提供していきたい。
総探	探究の意義や価値を理解することができる。	—	4.2	地域の人を講師に招いて、実際に話を聞くことで探究の意義や価値を理解させることができたので、次年度はさらなる深化を図りたい。
	実社会や実生活と自己との関わりから見出した問いを表現することができる。	—	4.2	作品作りを通じて、自己の表現力を磨くことができたので、次年度は4年間の集大成として、満足のいく作品を制作することを目指す。
	探究に取り組むことで、よりよい社会を実現しようとする態度を養うことができる。	—	4.4	教員や地域の方、また友人とコミュニケーションを通じて社会性を養うことができた。今後も、社会人としての態度やマナーの向上を総合的な探究の中で培ってきたい。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う	69.3%	89.8%
話し合い, 討論, 発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う	82.1%	94.9%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う	92.4%	94.9%
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	89.8%	100.0%
活用・探究など, 学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	64.2%	82.1%
授業や単元の終わりに, 目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う	74.4%	89.8%
家庭学習(宿題や課題)と授業を, 有機的に結び付けることができた ①強くそう思う, ②そう思う	61.6%	94.9%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う	71.8%	71.8%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
学校がパソコンや視聴覚教材、プリントの活用など工夫をした授業実践に努めており、生徒が学習に取り組む環境が整えられていると考える肯定的な保護者が80%を占めている。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
「授業アンケート」高評価数値の推移からみて、数値的には年度末評価で改善が進んだと考えられる。特に、学んだことを別の場面で使うことや家庭学習と授業を有機的に結びつけることにおいては、下位学年と比較しても評価数値が高い。一方で、ICT機器の効果的な活用については、数値があまり高くなく、推移も横ばい状態である。BYOD導入の初学年であることから評価が高くなるべきところだが、学年に合わせて学習内容等が複雑になるため、教員と生徒の両方においてICT機器の活用方法に工夫が必要と考えられる。